



## 2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月11日

上場会社名 東宝株式会社 上場取引所 東・福  
コード番号 9602 URL <https://www.toho.co.jp/>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)松岡宏泰  
問合せ先責任者 (役職名)上席執行役員コーポレート本部経理財務担当 (氏名)加藤陽則 (TEL)03(3591)1218  
四半期報告書提出予定日 2023年10月11日 配当支払開始予定日 2023年11月21日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年2月期第2四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	139,642	16.0	30,752	18.4	32,881	8.8	21,751	0.9
2023年2月期第2四半期	120,353	—	25,984	—	30,213	—	21,558	—

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 34,947百万円(52.0%) 2023年2月期第2四半期 22,992百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	124.59	—
2023年2月期第2四半期	122.24	—

(注) 2023年2月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2023年2月期第2四半期に係る各数値は当該会計基準等を適用した後の金額となっていることから、増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第2四半期	569,616	451,481	76.6
2023年2月期	534,097	423,691	76.6

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 436,541百万円 2023年2月期 409,306百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	20.00	—	40.00	60.00
2024年2月期	—	20.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	40.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	270,000	10.5	50,000	11.4	54,000	12.9	36,000	206.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年2月期2Q	186,490,633株	2023年2月期	186,490,633株
2024年2月期2Q	11,896,967株	2023年2月期	11,915,882株
2024年2月期2Q	174,582,883株	2023年2月期2Q	176,359,733株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述などについてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計方針の変更)	12
(セグメント情報等)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善する中で、景気は、緩やかな回復の動きがみられる一方で、海外景気の下振れリスクや物価上昇の影響などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢下にあつて当社グループでは、2022年4月に策定した「中期経営計画 2025」の各事業戦略の推進と数値目標達成に向けて2年目をスタートいたしました。当第2四半期連結累計期間における経営成績は、営業収入は1396億4千2百万円（前年同四半期比16.0%増）、営業利益は307億5千2百万円（同18.4%増）、経常利益は328億8千1百万円（同8.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は217億5千1百万円（同0.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

#### 映画事業

映画営業事業では、東宝(株)において、共同製作や配給した作品のうち、「名探偵コナン 黒鉄の魚影」が「名探偵コナン」シリーズ作品で初めて興行収入100億円を突破する大ヒット、「君たちはどう生きるか」「キングダム 運命の炎」「劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』」「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」「わたしの幸せな結婚」などヒットいたしました。また、東宝東和(株)等が配給した「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」が大ヒット、「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」「ワイルド・スピード/ファイヤーブースト」などヒットいたしました。これらの結果、映画営業事業の営業収入は24,474百万円（前年同四半期比22.6%増）、営業利益は9,610百万円（同23.9%増）となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、映画館への配給が19,273百万円（前年同四半期比35.5%増）、劇場用映画の国内配信が406百万円（同67.3%減）となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品等を上映いたしました。当第2四半期連結累計期間における映画館入場者数は23,493千人と前年同四半期比8.6%の増加となりました。なお、TOHOシネマズ(株)では、エネルギー価格の高騰や人件費増加等により2023年6月1日から映画鑑賞料金を改定いたしました。これらの結果、映画興行事業の営業収入は44,516百万円（前年同四半期比16.0%増）、営業利益は8,114百万円（同52.2%増）となりました。当第2四半期連結累計期間中の劇場の異動につきましては、TOHOシネマズ(株)が2023年4月17日に大阪府門真市「TOHOシネマズ ららぽーと門真」（9スクリーン）をオープンいたしました。これにより、当企業集団の経営するスクリーン数は全国で9スクリーン増の730スクリーン（共同経営56スクリーンを含む）となっております。

映像事業では、東宝(株)において「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「BLUE GIANT」「ハイキュー!!!」「Dr.STONE」「ちびゴジラ」等、製作出資いたしましたTOHO animation作品の国内外の配信・商品化権収入に加え、各種配分金収入がありました。パッケージ事業では「シン・ウルトラマン」に加え、TOHO animation作品の「お兄ちゃんはおしまい!」「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」の販売が伸びました。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて当社グループ配給作品の「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」「わたしの幸せな結婚」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」の販売が好調に推移いたしました。また、TOHO animation作品のキャラクターグッズ販売が営業収入に寄与いたしました。TOHOスタジオ(株)では、制作及びスタジオ事業の一体運営を図り、堅調に稼働いたしました。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では、映画やTV・CM等での舞台製作・美術製作やテーマパークにおける展示物の製作業務に関して受注持ち直しの動きに加え、原価低減に努めました。これらの結果、映像事業の営業収入は25,880百万円（前年同四半期比30.4%増）、営業利益は5,106百万円（同22.9%増）となりました。

なお、上記営業収入の主な内訳として、アニメコンテンツの利用が10,208百万円（前年同四半期比52.1%増）、パッケージの販売が2,113百万円（同15.2%増）、映像作品等に係る美術製作が4,053百万円（同3.8%増）となりました。

以上の結果、映画事業全体では、営業収入は94,872百万円（前年同四半期比21.3%増）、営業利益は22,831百万円（同32.4%増）となりました。

#### 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場におきまして、大人気コミック「SPY×FAMILY」初のミュージカル化を実現し全席完売、「Endless SHOCK (Endless SHOCK/ Endless SHOCK Eternal)」が盛況に推移、日本初上演として話題となった「ムーラン・ルージュ！ザ・ミュージカル」が満席となりました。シアタークリエにおきましては「RENT」「おかしな二人」「She Loves Me」「ダーウィン・ヤング 悪の起源」「SHOW BOY」「家族モドキ」等を上演いたしました。また、社外公演として「キングダム」「SPY×FAMILY」等を全国へ展開いたしました。東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で好調に推移いたしました。

以上の結果、演劇事業の営業収入は9,707百万円（前年同四半期比16.3%増）、営業利益は1,264百万円（同14.8%増）となりました。

#### 不動産事業

不動産賃貸事業では、依然として不確実性の高いオフィス市況が続く中、保有物件の有効活用に努めつつ、テナントに対するきめ細かな対応により、賃貸用不動産の空室率は、当第2四半期連結会計期間末において0.5%となりました。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は14,530百万円（前年同四半期比4.5%増）、営業利益は6,031百万円（同0.7%減）となりました。

道路事業では、公共投資が底堅く推移しましたが、建設技能者の不足に加えて、労務費・資機材価格の上昇が継続する等、依然として予断を許さない状況が続きました。このような状況の中、スバル興業(株)と同社の連結子会社は、積極的な営業活動に努め堅調に受注を確保しましたが、採算性の高い工種の減少がありました。その結果、道路事業の営業収入は14,690百万円（前年同四半期比0.6%増）、営業利益は2,641百万円（同12.7%減）となりました。なお、営業収入の主な内訳は、道路の維持管理・清掃等13,396百万円（前年同四半期比0.2%増）であり、またその他の収益419百万円（同3.2%増）が含まれております。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び東宝ファシリティーズ(株)において、人手不足や人件費・原材料費の増加が継続する一方、延期になっていた工事の実施等がありました。その結果、営業収入は5,242百万円（前年同四半期比10.9%増）、営業利益は576百万円（同36.0%増）となりました。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は34,463百万円（前年同四半期比3.7%増）、営業利益は9,250百万円（同2.9%減）となりました。

#### その他事業

東宝共榮企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」やTOHOリテール(株)の劇場売店等において、個人消費の動向に持ち直しの動きが見られる中、積極的な営業活動に努めました。その結果、その他事業の営業収入は599百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益は114百万円（同11.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は35,519百万円増加し、569,616百万円となりました。これは現先短期貸付金で6,999百万円の減少がありましたが、現金及び預金で4,704百万円、棚卸資産で3,721百万円、有価証券で8,309百万円、投資有価証券で20,346百万円の増加があったこと等によるものです。

負債では前連結会計年度末から7,729百万円増加し、118,135百万円となりました。

純資産は前連結会計年度末と比較して27,789百万円増加し、451,481百万円となりました。これは利益剰余金で14,755百万円の増加、その他有価証券評価差額金で10,878百万円の増加があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の業績予想につきましては、2023年7月13日に公表しました数値を以下のとおり修正いたしました。

2024年2月期の連結業績予想数値の修正（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	260,000	45,000	48,000	31,000	177.57
今回修正予想 (B)	270,000	50,000	54,000	36,000	206.21
増減額 (B-A)	10,000	5,000	6,000	5,000	—
増減率 (%)	3.8	11.1	12.5	16.1	—
(ご参考) 前期実績 (2023年2月期)	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

セグメントごとの今後の見通しは、以下のとおりであります。

映画事業

東宝㈱、東宝東和㈱等においてゴジラ70周年記念作品となる「ゴジラ-1.0」をはじめとした以下の話題作品を共同製作、配給いたします。これにより、映画営業事業の営業収入は43,200百万円（前年度比5.6%増）を見込んでおります。

東宝㈱ 共同製作／配給作品	
YOSHIKI : UNDER THE SKY	ミステリと言う勿れ
沈黙の艦隊	アナログ
ゆとりですがなにか インターナショナル	ゴジラ-1.0
首	窓ぎわのトットちゃん
屋根裏のラジャー	劇場版 SPY×FAMILY CODE : White
ゴールデンカムイ	劇場版 君と世界が終わる日に FINAL
劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦	
東宝東和㈱等 配給受託作品	
ドラキュラ／デメテル号最期の航海	ミュータント・タートルズ：ミュータント・パニック！（東和ピクチャーズ㈱）
キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン（東和ピクチャーズ㈱）	スラムドッグス
エクソシスト 信じる者	パウ・パトロール ザ・マイティ・ムービー（東和ピクチャーズ㈱）

(注) 公開予定作品につきましては、公開延期等の変更が生じる可能性があります。最新の情報につきましては当社ホームページ等をご確認ください。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品を中心として話題作を上映する予定です。映画興行事業の営業収入は76,000百万円(前年度比7.0%増)を見込んでおります。また、第3四半期以降の劇場の異動予定につきましては、2023年11月30日北海道札幌市中央区に「TOHOシネマズ すすきの」(10スクリーン)のオープンを予定しており、全国で10スクリーン増の740スクリーン(共同経営56スクリーンを含む)となる予定です。

映像事業では、東宝(株)のTOHO animationにおいて「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「葬送のフリーレン」「薬屋のひとりごと」等、製作出資作品の幅広い利用による収益拡充に努め、ゲーム事業では「呪術廻戦ファントムブラッド」のリリースを予定しております。パッケージ事業においても「すずめの戸締まり」をはじめとしたバラエティに富んだラインナップを提供し、様々な取り組みを展開いたします。出版・商品事業は劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「ゴジラ-1.0」「劇場版 SPY×FAMILY CODE:White」等の当社配給作品等を幅広く提供する予定です。また、「ゴジラ」をはじめとする「東宝怪獣キャラクター」の商品化権収入等の更なる拡大に努めます。TOHOスタジオ(株)は、制作及びスタジオ事業の一体運営の機能強化を図り、映画・TV・CM制作等の受注獲得に努めてまいります。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では施工管理・原価管理等に努めながら、映画やTVの美術製作、イベント工事等を確保すべく新規顧客開拓等に努め、積極的な営業活動に取り組んでまいります。以上より、映像事業の営業収入は61,500百万円(前年度比33.5%増)を見込んでおります。

これらの結果、映画事業全体では、営業収入は180,700百万円(前年度比14.4%増)を見込んでおります。

### 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場・シアタークリエの他、以下の公演を予定しております。この他、社外公演として「チャーリーとチョコレート工場」等を全国に展開いたします。また、東宝芸能(株)では、CM、TV、映画等での所属俳優の活動に向けて積極的に営業活動を展開してまいります。これらの結果、演劇事業の営業収入は20,000百万円(前年度比9.9%増)を見込んでおります。

帝国劇場	
(9月) DREAM BOYS	(10月) ミュージカル『チャーリーとチョコレート工場』
(11月) ミュージカル・ピカレスク 『LUPIN〜カリオストロ伯爵夫人の秘密〜』	(12月) ABC座星(スター)劇場2023〜5 Stars Live Hours〜
(2月) ミュージカル 『ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド』	
シアタークリエ	
(9月) SHINE SHOW!	(9月) M. クンツェ&S. リーヴァイの世界〜3rdSeason〜
(10月) ミュージカル『のだめカンタービレ』*	(11月) ビロクシー・ブルース
(11月) TOHO MUSICAL LAB.	(11月) 春風亭小朝と島田歌穂の「日比谷で逢いましょう」
(11-12月) PURE GOLD ～大地真央50周年記念コンサート～	(12月) プレミア音楽朗読劇 『VOICARION XVII〜スプーンの盾〜』
(1月) Yuichiro & Friends -Singing! Talking! Not Dancing!-	(1-2月) ATTENTION PLEASE!2
(2-3月) 骨と軽蔑 *	
その他の劇場	
(9月) ミュージカル『生きる』(新国立劇場 中劇場)*	(9月) ミュージカル『ラグタイム』(日生劇場)
(11月) ミュージカル『天使にラブ・ソングを〜シスター・アクト〜』(東急シアターオーブ)	(12月) ミュージカル『ベートーヴェン』(日生劇場)
(1月) ミュージカル『トッツィー』(日生劇場)	

(注)作品名の「\*」は共同製作公演となります。なお、上演スケジュール等に変更が生じる可能性がありますので、最新の情報につきましては、当社ホームページ等をご確認ください。

### 不動産事業

不動産賃貸事業では、オフィスビルの大量供給が見通される中、東宝㈱の不動産経営部門では、長期的視野に立った設備改修や再開発の企画立案を通し、全国に所有する不動産の有効活用に努めつつ、テナントに対するきめ細かな対応と意思の疎通に心掛け、業績の向上を目指します。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は29,000百万円（前年度比3.5%増）を見込んでおります。

道路事業では、スバル興業㈱と同社の連結子会社が、原価管理の徹底を基本とし、積極的な営業活動を行い、受注の拡大を図ってまいります。道路事業の営業収入は28,700百万円（前年度比0.7%減）を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理㈱及び東宝ファシリティーズ㈱が価格競争の続く事業環境下において、新規受注の獲得に取り組んでまいります。その結果、不動産保守・管理事業の営業収入10,400百万円（前年度比4.2%増）を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は68,100百万円（前年度比1.8%増）を見込んでおります。

### その他事業

東宝共栄企業㈱の「東宝調布スポーツパーク」においてはリニューアルしたゴルフ練習場を始めとして、お客様に満足いただける営業施策を積極的に展開してまいります。また、TOHOリテール㈱は劇場売店等において魅力ある商品を揃え売り上げ拡大に努めてまいります。

その結果、その他事業の営業収入は1,200百万円（前年度比3.1%増）を見込んでおります。

なお、通期における設備投資は通常の改修工事（減価償却費（予算9,600百万円）の範囲内での改修工事）と「TOHOシネマズ すすきの」等のオープンを予定しており、予算14,800百万円の範囲内で行うことを見込んでおりますが、新規物件購入や設備取得については機動的に追加投資を行ってまいります。

以上の結果、当連結会計年度の営業収入は2700億円（前年度比10.5%増）、営業利益は500億円（前年度比11.4%増）、経常利益は540億円（前年度比12.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は360億円（前年度比7.7%増）を見込んでおります。



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	44,259	48,964
受取手形、売掛金及び契約資産	32,921	35,199
有価証券	44,986	53,295
棚卸資産	11,003	14,724
現先短期貸付金	64,999	57,999
その他	26,627	25,077
貸倒引当金	△89	△78
流動資産合計	224,708	235,182
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	85,434	84,477
土地	80,475	81,723
建設仮勘定	2,749	4,715
その他（純額）	8,792	9,697
有形固定資産合計	177,451	180,614
無形固定資産		
のれん	2,032	1,911
その他	2,920	3,374
無形固定資産合計	4,953	5,285
投資その他の資産		
投資有価証券	108,499	128,845
その他	18,567	19,779
貸倒引当金	△82	△92
投資その他の資産合計	126,984	148,533
固定資産合計	309,388	334,433
資産合計	534,097	569,616

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	30,773	32,709
短期借入金	53	469
1年内返済予定の長期借入金	59	54
未払法人税等	9,782	8,461
賞与引当金	1,008	1,058
その他の引当金	168	—
資産除去債務	52	52
その他	23,864	24,913
流動負債合計	65,762	67,720
固定負債		
長期借入金	326	303
退職給付に係る負債	3,437	3,502
役員退職慰労引当金	178	161
その他の引当金	86	86
資産除去債務	7,117	7,244
その他	33,498	39,115
固定負債合計	44,643	50,415
負債合計	110,405	118,135
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	14,180	14,216
利益剰余金	404,225	418,980
自己株式	△38,866	△38,807
株主資本合計	389,894	404,745
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,092	27,971
土地再評価差額金	800	800
為替換算調整勘定	2,110	3,565
退職給付に係る調整累計額	△592	△541
その他の包括利益累計額合計	19,411	31,796
非支配株主持分	14,384	14,939
純資産合計	423,691	451,481
負債純資産合計	534,097	569,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年8月31日)
営業収入	120,353	139,642
営業原価	64,144	75,969
売上総利益	56,208	63,672
販売費及び一般管理費		
人件費	9,593	10,566
広告宣伝費	3,301	3,325
賞与引当金繰入額	708	774
退職給付費用	512	561
役員退職慰労引当金繰入額	13	14
借地借家料	4,520	4,812
その他	11,573	12,864
販売費及び一般管理費合計	30,224	32,920
営業利益	25,984	30,752
営業外収益		
受取利息	36	357
受取配当金	964	1,147
持分法による投資利益	315	163
為替差益	2,745	352
その他	174	172
営業外収益合計	4,235	2,194
営業外費用		
支払利息	3	3
子会社清算損	—	51
その他	2	10
営業外費用合計	5	66
経常利益	30,213	32,881
特別利益		
固定資産売却益	75	—
助成金収入	2,353	—
特別利益合計	2,429	—
特別損失		
投資有価証券評価損	28	—
出資金評価損	—	107
特別損失合計	28	107
税金等調整前四半期純利益	32,615	32,773
法人税、住民税及び事業税	9,901	9,451
法人税等調整額	136	759
法人税等合計	10,037	10,211
四半期純利益	22,577	22,562
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,019	810
親会社株主に帰属する四半期純利益	21,558	21,751

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	22,577	22,562
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△94	10,870
為替換算調整勘定	452	1,455
退職給付に係る調整額	58	51
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	7
その他の包括利益合計	414	12,384
四半期包括利益	22,992	34,947
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,972	34,136
非支配株主に係る四半期包括利益	1,019	810

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	32,615	32,773
減価償却費	4,540	4,931
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△16	△1
受取利息及び受取配当金	△1,000	△1,505
支払利息	3	3
持分法による投資損益 (△は益)	△315	△163
投資有価証券評価損益 (△は益)	28	—
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△7,784	△1,980
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,457	△3,629
仕入債務の増減額 (△は減少)	7,191	1,722
未払消費税等の増減額 (△は減少)	320	297
その他	208	5,691
小計	34,333	38,139
利息及び配当金の受取額	1,089	1,635
利息の支払額	△6	△8
法人税等の支払額	△9,952	△10,689
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,462	29,077
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△20,399	△30,396
有価証券の売却による収入	28,300	31,100
有形固定資産の取得による支出	△9,888	△10,407
有形固定資産の売却による収入	363	1
投資有価証券の取得による支出	△2,004	△13,599
貸付けによる支出	△22	△1
貸付金の回収による収入	56	4
金銭の信託の取得による支出	△300	△2,300
金銭の信託の解約による収入	2,600	—
その他	△340	△2,278
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,635	△27,876
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△7	△9
長期借入金の返済による支出	—	△31
自己株式の取得による支出	△4,240	△4
配当金の支払額	△4,863	△6,988
非支配株主への配当金の支払額	△305	△296
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△3	△4
リース債務の返済による支出	△7	△72
その他	—	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,427	△7,398
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,104	1,599
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	17,503	△4,597
現金及び現金同等物の期首残高	92,341	112,121
現金及び現金同等物の四半期末残高	109,844	107,524

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	78,199	8,348	33,234	119,782	570	120,353	—	120,353
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,173	25	2,530	3,728	90	3,819	△3,819	—
計	79,373	8,373	35,764	123,511	660	124,172	△3,819	120,353
セグメント利益又は損失(△)	17,245	1,101	9,521	27,869	102	27,972	△1,988	25,984

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,988百万円は、セグメント間取引消去11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,999百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	94,872	9,707	34,463	139,042	599	139,642	—	139,642
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,086	14	2,549	3,649	142	3,792	△3,792	—
計	95,958	9,721	37,012	142,692	742	143,434	△3,792	139,642
セグメント利益又は損失(△)	22,831	1,264	9,250	33,346	114	33,460	△2,708	30,752

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,708百万円は、セグメント間取引消去△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,706百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。